

教育研究上の目的

本学が教育の目的とするところは、本学の教育理念、建学の精神から必然的に導かれる「社会の要請に答え得る人材の育成」である。本学では、各専攻において養成する専門職、あるいは母国と日本の架け橋となって活躍できる留学生の育成を通じて広く社会の要請に答えている。ただし、本学の言う「社会の要請」とは単にビジネススキルのことのみを言うのではなく、社会人として広く求められる「豊かな人間性」「グローバルな視野」「高いコミュニケーション能力」「高度な専門的知識」を備えたものを指すことは建学の精神より明らかである。

以上のことを踏まえて、各専攻では教育の目的と目標について以下の通り定めている。

〔こども教育専攻〕

こども教育専攻は平成14年に国際幼児保育専攻として保育士ならびに幼稚園教諭の養成課程として設置されたものである。その後、平成16年に学科名称を変更するのに伴い、名称を幼児保育専攻と改め、さらに平成22年に小学校教員養成課程を併設して、名称をこども教育専攻に改めた。時代の要請に答えて、目指す資格・免許は広がりを見せたが、本専攻の教育の目的が「実践力を備えた保育者・教員の養成」にあることは変わらない。すなわち、「保育・教育の充実を求める社会のニーズに応え、未来の社会を支える尊い職業に携わる使命感、責任感そして愛情を持った良質な保育者・教育者の育成」を教育の目的としている。

また、そのような教育の目的を達成するために、次のような教育の目標を掲げている。

- ①保育者としての使命感・倫理観を身につける。
- ②公平で偏りのないものの見方を身につける。
- ③周囲と連携を図るためのコミュニケーション能力の獲得。
- ④高度な専門的知識と状況に応じた的確な判断力の獲得。

〔看護学専攻〕

平成17年に、医療分野として初めて本学に設置された看護学専攻では、単なる知識・技術の修得だけではなく、「豊かな人格と広範な視野をもって看護学の発展に寄与でき、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を持った看護師の育成」を教育の目的としている。

この教育の目的を達成するために以下の教育の目標を掲げている。

- ①相手を思いやり、他者を尊重する豊かな感性を育てる。
- ②多様な価値観を認めるグローバルな視野と思考力を養成する。
- ③社会貢献に必要とされるコミュニケーション能力を獲得する。
- ④最新の看護技術に対応する高度な専門知識と論理的思考力を獲得する。

ますます、専門化、高度化が進む医療の現場において、最新の看護の知識と技術が求められることは当然のことではあるが、患者や疾病に対する正しい理解が無ければ日々進歩する医療・看護の現場に立つことはできない。また、医師をサポートすることは看護師の重要な職務ではあるが、同時に健康の回復を願う患者のサポートをすることは看護師にとって最も重要な職務であるといえる。人間性を重視し、常に患者と寄り添い支えていける看護師が本学が養成しようとする看護師像である。

〔リハビリテーション学専攻〕

平成 19 年に理学療法学専攻として設置された理学療法士養成課程である。平成 21 年に現在の名称に変更した。リハビリテーション学専攻において教育の目的とするところは、「リハビリテーションを必要とする人の側に立ち、対象者の人権・価値観を尊重しながら機能回復に必要となるリハビリテーションの知識・技術・態度を身につけたセラピストの育成」にある。

この教育の目的に即して、教育の目標を以下のように定めている。

- ①人間に対する深い愛情、思いやりの心を育てる。
- ②人に対する洞察力を養い、“気づく”ことのできる力を育てる。
- ③社会やチームの一員としての協調性とコミュニケーション能力を育てる。
- ④セラピストとしての高度な知識と技術を身につける。

平成 28 年度 4 月より、リハビリテーション学専攻は従来の理学療法士養成課程に加え、作業療法士養成課程を併設するが、同じセラピストの養成課程として教育の目的と目標は同じくするところである。

〔専攻科〕

なお、本学は専攻科を設置しており、地域看護学専攻、助産学専攻、リハビリテーション学専攻理学療法学課程、リハビリテーション学専攻作業療法学課程、リハビリテーション学専攻言語聴覚学課程の 3 専攻・3 課程を有している。専攻科の各専攻・課程も総合人間学科同様に、豊かな人間性、グローバルな視野、高いコミュニケーション能力と高度な専門的知識・技術を持った保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の養成を教育の目的としている。

(参考)

【学校法人西大和学園の教育理念】

「国づくりは人づくり 人づくりは教育」

【大和大学白鳳短期大学部 建学の精神】

科学技術の進歩は多くの未知を解明し、私たちの生活に豊かさと安楽を与えてくれた一

方で、自然環境の破壊や生活環境の激変が、新たな危機と不安とを私たちの心にもたらしつつある。科学技術の進展と高度成長を支えた過去の教育に欠けていたのは、「人間とは何か」という根本的な洞察である。今、必要とされるのは既知の知識の体系ではなく、「自己とは何か」という真摯な問いかけと、総体としての人間を洞察する、柔軟かつ鋭敏な感受性にほかならない。

また、現在は国境を越えた人間と情報のやりとりが日常化し、「国際化」がしきりに叫ばれている。しかし、わが国における「国際化」とは、明治以来、単なる「西洋化」を意味している場合が多かったのではないだろうか。真の国際化を達成するためには、まず自己を知り、自己の属する文化を学ばなければならない。日本の歴史・文化・芸術等に対して深い理解をもち、その上で他者、すなわち異文化との対話をくりかえすことによって、初めて国際人と呼ばれるにふさわしい資格を身につけることができると考える。こうした認識のもとに、私たちは白鳳女子短期大学（現、大和大学白鳳短期大学部）を創設した。白鳳とは、学び舎の位置する大和盆地に、かつて国際性豊かな芸術文化を实らせた白鳳時代から取った名称である。この名には私たちの文化の源流をたずねる意味と同時に、未来の蒼穹にはばたく鳳たらんとする祈願がこめられている。

「自己をみつめ、他者を知る」真の国際人を養成することが、私たちの願いである。一層の激動が予想される新世紀にあたって、白鳳女子短期大学（現、大和大学白鳳短期大学部）は、地球上のいかなる場所にあっても真を愛し、善を求め、美を願う人間を育成せんとする希求の、ささやかな礎石たらんとする思いをもって歩んでまいりたい。